

◆岡山大学法学部だより◆

※ 本メールは法学部の教職員、在学生、卒業生および岡山大学法学部ホームページから登録された方にお送りしています

第144号(2018年4月2日発行)

発行：岡山大学法学部 学部長室

---

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

この春卒業されたみなさんも、それぞれの場所で新しいスタートをきられたことでしょう。

これからのご活躍を心よりお祈りしています。

-----

○新入生のみなさんへ

-----

新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます。

桜咲くこの季節、30年近く前に国立大学に職を得てから毎年数多の新入生を迎えて参りましたが、今年は学部長として、皆様にご挨拶かたがた、一言申し上げることになりました。私が大学に入学してからはや40年近くが過ぎようとしておりますが、昔から北国が好きで、大学も北国の大学を選んで、その北国での生活もこれまた北国ロシアの研究に関わる勉学に明け暮れるものでありました。当時はまだ冷戦時代で、ソ連という国が存在し、米ソ対立を基調としたこの時代がずっと続いていくものと思っておりましたが、大学院に進学した時期に冷戦の時代が終わりを遂げ、ソ連もあっけなく崩壊してしまいました。

私が大学生だった頃は、在学中に海外留学に出かけることはまだ少々敷居が高く、大学側も昨今のように海外の大学との交流活動にそれほど力を入れてはいないこともあって、大学の支援を得て海外に留学することは「狭き門」といった感がありました。それでも、学部の学生時代に二月ばかりソ連で短期の語学研修を受けた時の経験が60歳に近いこの年齢になっても、研究上の大きな糧となっております。グローバル化がますます加速する今日、欧米やアジアをはじめとする海外の大学に長短期の留学をする機会は、私の学生時代と比べて、はるかに手の届くものとなっております。岡山大学でも、全学や学部の取り組みとして、学部生を対象とする長短期の海外留学を支援する体制が少しずつ整ってきており、ご自身がそれを望むのであれば、その機会は大きく開かれたものとなっております。

冷戦後の世界は、民族・宗教紛争が多発する時代であり、開発途上国だけではなく、先進国もテロ対策など多くの問題を抱えており、海外で生活することには一定のリスクが伴うことも確かですが、新しく岡山大学に入学された法学部生の皆さまには、学部生の間には是非一度海外への留学にチャレンジされ、外から日本という国を見つめ直す機会を持たれることをお勧めします。その時の経験が、今後どういう職業に就かれるにせよ、将来、とても有意なものになると思います。岡山大学法学部での学生生活が、皆様のこれからの人生にとって、大いに実りあるものとなりますことを心より願っております。

法学部長 河原 祐馬